

●手法：月籠について



日本建築といえば一番にイメージしたのが町家の並ぶ景色だった。

日中、深い庇と多様な格子窓は家の中に影を作り外からは中の様子がよく見えない。一方で夜、中の明かりがつくと人影が見えて中の様子を垣間見ることができる。

この昼にはそこにあるけれども見えにくく夜になると見えてくる様が月のようで、町家を囲む格子窓が籠のようだったため「月籠」と呼ぶことにした。

●計画敷地



福岡県 大濠公園 大濠池の菖蒲島

落ち着いたある散策路として海外旅行客にも人気の水景公園。野鳥も多く自然豊かなだけでなく、近隣には庭園・城跡・美術館など文化施設も充実している。

菖蒲島は他の島に比べると小さく、こじんまりとして落ち着いたはあるが、他と比べて物寂しい島でもある。

●設計：松林に溶け込む東屋

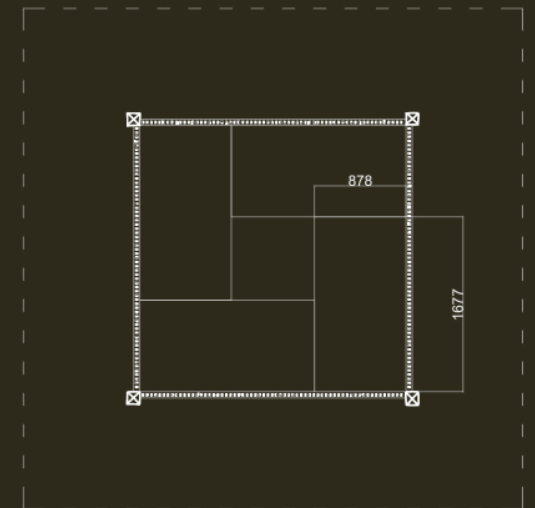
松に囲まれ落ち着いたある菖蒲島に町家から得た月籠の手法を用いて、通り過ぎるだけだった散策路に人の集う東屋を設計する。

昼、人が活発に動く中ここはやわらかに格子で隔離された落ち着いたある空間。
夜、照らされてかすかに感じる人の気配がちょっとした賑わいと光のぬくもりを与える空間に。

▼平面図

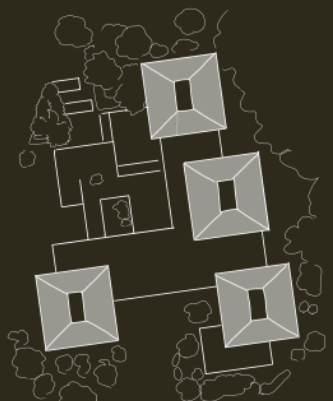


▼基本のかたち



- 1, 4畳半(最小の茶室)を2cm幅の格子で囲んだものに陸屋根と寄棟屋根を掛け合わせた屋根をかけた形状を基本とする。
- 2, 自然との調和を尊重して福岡市美術館の形状を模倣したレイアウトにした。
- 3, 基本のかたちから通路を作るように畳を抜き、格子を開けたり、逆に外側に設けて垣間見る空間を演出する。

▼福岡市美術館



▼断面パース

